

経済 TOPICS

No. 254

(2026年4月16日)

景気ウォッチング（要旨）

日本 … 個人消費が横這い圏内の動きを続けるなか、生産が底堅く推移し、輸出が堅調に推移しているほか、設備投資が増加傾向を続けていることから、全体として緩やかに回復している。消費者物価(除く生鮮食品、2月)の前年比プラス幅は縮小したが、物価上昇圧力は底堅く推移している。足許では、米国・イスラエルとイランの戦争開始(2/28日)に伴い、原油価格が高騰するなど、先行き不透明感が極めて強い状態になっている。

米国 … 消費は弱めの動きを続けているものの、生産が回復傾向にあるほか、輸出が堅調で、設備投資が大幅な増勢を続けていることから、全体として底堅く推移している。消費者物価(総合、3月)は、イランとの開戦の影響に伴うエネルギー価格の上昇により前年比プラス幅が拡大している。イランとの開戦に伴い、先行き不透明感が極めて強い状態になっている。

(参考)日米の物価動向

〈日本〉 食料価格(除く生鮮食品)の前年比プラス幅が縮小し、政府の負担軽減策によりエネルギー価格が下落したことなどから、消費者物価(除く生鮮食品、2月)の前年比プラス幅は縮小した。ただ、政府の各種施策による効果(特殊要因)を除くと、物価上昇圧力は底堅く推移している。

〈米国〉 イランとの戦争開始の影響からエネルギー価格が大幅に上昇したことなどから、消費者物価(総合)の前年比プラス幅が拡大した(2月:+2.4%→3月+3.3%)。